平成29年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人小樽商科大学

1 全体評価

小樽商科大学は、建学以来の自由な学風と実学重視の精神を継承・発展させ、質の高い研究を維持し、社会の各分野において指導的役割を果たすことのできる品格ある人材を育成することを目指している。第３期中期目標期間においては、グローバル時代の地域マネジメント拠点としての社会的役割を果たすため、「アクティブラーニングの深化・充実」「新たな教育課程の構築」「全学的な地域課題研究の推進」「文理融合型ビジネス開発プラットフォームの構築」「産学官連携・他大学連携による地域人材育成」を推進し、北海道経済の発展に寄与する「グローカル人材」を育成することを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、自治体との包括連携協定に基づいた共同研究やグローバルな視野涵養のためのギャップイヤープログラムを導入するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第３期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成29年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

○　北海道財務局との包括連携協定に基づいた共同研究や小樽市の人口減少問題に対する同市との共同研究等、大学と行政の組織間での連携を実現し、政策への反映を見据えた地域課題に関する実践的研究に取り組んでいる。（ユニット「北海道経済の活性化を目的とした産学官連携及び大学連携に向けたプラットフォームの形成」に関する取組）

○　グローバルな視点から地域経済の発展に貢献できるグローカル人材育成のため、地域や海外の大学との連携により、大学内外での学びの橋渡しの役割を担う「グローバルブリッジ教育プログラム」及び「地域連携ブリッジ教育プログラム」として、地域の課題発見・解決に取り組むPBL型授業・インターンシップや留学生とともに地域ボランティアに取り組むインターンシップ等の長期学外学修プログラムを実施している。（ユニット「グローカル人材育成のため、海外及び国内の教育研究資源を活用した新たな教育課程の構築」に関する取組）

２ 項目別評価

＜評価結果の概況＞

	特　筆	一定の注目事項	順　調	おおむね順調	遅れ	重大な改善事項
（１）業務運営の改善及び効率化			○			
（２）財務内容の改善			○			
（３）自己点検・評価及び情報提供			○			
（４）その他業務運営			○			

Ⅰ．業務運営・財務内容等の状況

（１）業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善　②教育研究組織の見直し　③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載12事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成28年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されていること等を総合的に勘案したことによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加　②経費の抑制　③資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載５事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成29年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ 寄附金の獲得、自己収入の増収に向けた取組

「小樽商科大学修学支援基金」を周知するため、広報用リーフレットを作成し、小樽市内11か所への配置、各種イベントでの配付、保護者へ送付するとともに、学長・理事が全国の同窓会支部に直接赴き寄附募集を行った結果、平成29年度における寄附金に係る外部資金比率は約2.5％（対前年度比0.8ポイント上昇）となっている。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実　②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載３事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等　②安全管理　③法令遵守

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由）　年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ．教育研究等の質の向上の状況

平成29年度の実績のうち、下記の事項について**注目**される。

○ グローバルな視野涵養のためのギャップイヤープログラムの導入

入学試験合格者で意欲がある者に対して、１年間の入学を猶予し、大学がアレンジした海外留学プログラムを受講させる「ギャップイヤープログラム」制度を導入している。制度設計に当たっては派遣先大学との学生交換協定の締結や既設プログラムで現地に滞在した学生の視点・意見を傾聴するなど、実りあるプログラム実施に向けて取り組んでいる。

○ 既存プログラムの教育効果検証による新たな教育課程の構築

「グローカル・マネジメント副専攻プログラム」を１期生７名が修了し、グローカル人材の育成における海外留学の重要性、英語によるビジネス・経済の学修効果がGPAの高さ（修了生平均2.88、全学生平均2.32）により確認できており、更なる教育効果を目指して、「小樽商科大学グローカルコース（主専攻プログラム）」を新たな教育課程として実施することを決定するとともに、大学が目指すグローカル人材の育成を担う新たな教育研究組織体制を整えている。